



柴田佳南歩選手（#15）のゴールで先制点を挙げ、歓喜する瞬間

相手は、高校女子サッカー界にも多くの選手を輩出しているチーム。私たちは、自分たちのやりたいサッカーを少し封じてでも、勝ちにこだわり、積極的な気持ちを持つて試合に挑んでいました。試合中は終始励ましあい、苦しい試合展開の時も声をかけ合っていました。特に2得点目は、粘り強くこぼれ球を拾い、何とかゴールに結びつけた得点でした。

緊張感の中、アウェイの仙台でリーグ開幕戦を勝利できたことが自信になったのは間違いありません。 一来シーズンの抱負を教えて下さ
い。
今シーズンは、自分たちのモチベーションをどうコントロールするか、怪我などのイレギュラーにどう対応するか、そういう点が難しいと感じました。それを踏まえて来シーズンは、オン・オフの切り替えをしつかりと行い、自身と向き合うことが必要だと思



NPO 法人つくばフットボールクラブ
つくば市稻岡 66-1 イオンモールつくば A 区画 スポーツシユーレつくば

TEL : 029-896-3553
E-mail : yoga@tsukuba-fc.com



09 Vision September

09 Vision September

—青木選手、今シーズンで一番印象に残っている試合を教えて下さい。

今季初参戦となつた、チャレンジリーグの開幕戦、常盤木学園高等学校との試合です。

—その理由は?

選手全員が緊張感を持って迎えた試合でした。そんな中、2対0で勝利することができたからです。

—勝因は何だったのでしょうか。

開幕前の練習や紅白戦から、一人ひとりが闘争心を持つていると感じていました。そして、そのモチベーションを保つたまま開幕戦を戦うことができました。

— 鈴木選手、今シーズン一番印象に残っている試合を教えて下さい。

関東リーグ後期第3節のFC KOREA戦です。

この試合も、2点先行すること
ができたにも関わらず、3失点し
て一時逆転されてしまいます。で
すが、そこでチーム全体として氣
落ちせずに持ち直し、結果的に5
・3で勝利することができまし
た。

—来シーズンに向けての抱負を教えて下さい。

今シーズンは上位チーム相手に先制点を挙げたにもかかわらず、最終的に勝ち点を落としてしまうことが多かったです。リードした試合にしつかりと勝ち切ることが出来シーズンは重要になつてくるととなるPKを見事決めた鈴木選手。



よって異なるゲーム運びをするなどの試合展開のコントロールも必要であると痛感しました。今シーズンの良かったところとしては、自分達よりも下位のチームに対して取りこぼすことや、連敗がほとんどなかったことだと思うので、その点は継続していくからと思います。

どんな相手でも自分たちが試合をコントロールできるよう、チームとしても個人としてももっと心技体を高めていきたいです。来シーズンの目標は、まず今シーズンよりも良い結果を出すこと。昇格目指して頑張ります。



かっただかもしません。試合で同じ点に追いつかれたときや逆転されたときも、良くも悪くも「想定内」という雰囲気があり、そこからズルズルと相手のベースにならずに逆転につなげられたと思います。ここから連勝が続いたので、この試合の勝利は、チームにとって自信になつたのではないかと感じています。

